

---

# 大切なものと……

戸部内 翼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大切なものと……

### 【Nコード】

N5461N

### 【作者名】

戸部内 翼

### 【あらすじ】

主人公は絵の才能に溺れていた中学生。しかし、いつしかスランプにおちいり絵を描くことをやめていた。ある日テレビを見てみると、中学の時の同級生ナツミが映っていた。インタビューに答えるナツミの言葉で大切なものに気が付く主人公。そして、また絵を描き始める。

中学三年生の二学期。教室の中がどよめき、視線がわたしに集まる。

県で主催されている絵画のコンクールに入選したからだ。

当たり前的事だからいちいち騒がなくなっていていいのにとため息をつきたい気分だった。でも、そういうわけにはいかない。

使い慣れた笑顔の仮面を被り、近くの席のクラスメートに愛想をふりまく。

「ゆうちゃんすごいね〜」

後ろの席のナツミが、まるで自分のことのように喜び笑顔で祝福してくれた。

「そんなことないよ。たまたまだよ〜」

作り笑顔でそう答えながらナツミはおかしいと思っていた。だって、こんな風に他人の幸せを自分のことのように喜べるなんて、人間としての感情がどっか壊れていないと出来やしないに決まっている。

2

ある日ナツミがわたしみたいに絵を描きたいと言い出した。

才能がないと描けるわけがないのに、と思いながらもわたしは引き受けることにした。

ナツミに絵を教えていて気が付いたことがある。

それは、ナツミにはまったくセンスというものが感じられなかったのだ。構図やパースといったものが無茶苦茶なのだ。遠近も変だし、犬なのか猫なのかわからないタヌキを描いたりする。

わたしは困り果ててしまい、わたしが教えてもらっている絵の先生に人並みに描ける様に教えてあげてほしいとお願いした。

それからしばらくすると、わたしは絵を描くことをやめていた。

いや、正確に言えば描けなくなったのだ。

真っ白なキャンバスにむかい線を描くが、数秒線を走らせるだけで厭になってしまう。

人並みの言葉を使えばスランプというヤツだ。結局わたしはそのスランプを乗り越えられず、四年の月日が経った。

わたしは大学に進学し、人並みの青春ってヤツを謳歌していた。

ある日、なんとなしに付けたテレビのニュースはわたしを驚かせ

る。そこに映っていたのはナツミだったからだ。

ナツミとは中学を卒業して以来疎遠になっていた。それはスランプのせいもあつたし、欠陥品の彼女としてはわたしも欠陥品になってしまふという思いもあつたからである。

ニュースは世界にはばたく少女というものだった。わたしは気が付くと唇をかみ締めていた。

それは内容のせいだった。ナツミはたった四年の間で世界に注目される画家になっていたのである。

くやしさが、胸の奥から湧き上がった。

あの才能などかけらもない欠陥品にわたしは負けたのだ。そう思うと自分が惨めでたまらなくなる。

「私が絵を始めたきっかけは、中学の同級生に憧れてです」  
画面の向こうでナツミが話していた。

「その娘はきれいで、頭も良くて、おまけに絵のコンクールで入賞しちゃうぐらいすごい娘でした」

それも心のそこからうれしそうに……。

「その娘みたいになりたくて絵を教えてっってお願ひしたんです。そしたら笑顔でいいよって言うてくれて……」

ああ、この娘はやはり馬鹿なんだ。わたしがいい子でいるためにつけた仮面を信じ、わたしみたいなのを目標にしてあんな高みに上がってしまったんだから。

そう思うと、いろいろな感情が入り混じったせいか涙があふれ止まらなくなってしまうた。

わたしは、ナツミの言葉を一言も逃すまいと食い入るように見つめた。

あれから、一年が過ぎた。

あの日、ニュースが終わったあとわたしは筆を取った。

何年も書かなかったせいやはり納得のいく線も構図も描けはしない。

だけど、わたしは書くことをやめなかった。何枚も何枚も描いて、気が付けば一年が経っていたのである。

結局のところ、今も納得のいく絵など描けていない。

だけどわたしはやめるわけにはいかないのだ。

ニュースの最後にナツミの言った言葉のためにも……。

「私の憧れの娘は、いつか世界一の画家になると思います。まってるよ、ゆうちゃん」

おしまい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5461n/>

---

大切なものと.....

2010年10月9日06時49分発行